

一般社団法人

日本災害リハビリテーション支援協会 概要

地域包括ケア時代：
災害と地域リハビリテーション

COI開示

発表者名：栗原 正紀

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係
にある企業などはありません。

Design: PLAN_2



JRAT代表 栗原正紀
(長崎リハビリテーション病院 理事長)

一般社団法人 日本災害リハビリテーション支援協会
Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team (JRAT)

本日、話しをさせていただきたい内容

全てが地域リハビリテーションに通じる

1) ” 地域リハビリテーション “との出会い (自己紹介) ～救急医療から地域生活支援まで～

災害リハビリテーション支援に至るまでの経緯

【救急現場からの学び】

○超高齢社会：地域医療の基盤となるのは

- 多職種チーム医療の実現
- 適時、適切なリハビリテーション医療の展開
- 機能分化・連携

□ “病気を治す・命を助ける” 医療から生活を支える医療への
パラダイムシフトが大切

◆ 地域リハビリテーション (地域包括ケア) の視点が肝要

2) ” 日本災害リハビリテーション支援協会 “概要

3) これからの地域リハビリテーション活動 in 長崎 地域医療から地域包括ケアシステムの構築を目指す



”地域リハビリテーション“との出会い

～救急から地域生活支援そして災害リハビリテーションまで～

経緯（略歴）概説

石川 誠さん

○1978年：長崎大学医学部卒業
脳神経外科医を目指す（ベンケーシー世代）

○1990年：長崎市内救急病院脳神経外科部長
浜村明德さん（現、小倉リハ病院）との出会い
”地域リハビリテーション“を知る
救急病院のリハビリテーションを意識

●1992年：”長崎実地救急医療連絡会“設立
救急医療システムの構築
救急搬送データバンク構築
“長崎救急医療白書”編纂

石川 誠さん（故人：輝生会会長）との出会い

●1997年：”長崎斜面研究会“設立（代表）
地域リハ活動、まちづくり
・長崎市独自の移送サービス事業
モノレール、リフト

■2001年：高知へ：近森リハ病院院長

=脳神経外科から本格的にリハの世界へ=
回復期医療の位置づけの重要性を意識

□2006年：長崎へ：一般社団法人是真会 理事長

◇2008年：長崎リハ病院新築開設（院長兼務）
回復期リハ専門病院として

●2012年：日本リハ病院・施設協会 会長
(2016年地域リハ定義の改定)

◆2013年：大規模災害リハ支援関連団体
協議会(JRAT) 代表

2018年：日本リハ病院・施設協会 名誉会長

2020年：一般社団法人是真会理事長

◆2020年：日本災害リハ支援協会 (JRAT)
代表理事



一般社団法人 是真会
長崎リハビリテーション病院
在宅支援リハビリテーションセンターぎんや
理事長 栗原 正紀

1992年

長崎実地救急医療連絡会

規約：本会は長崎地区救急医療に携わる医療従事者（医師、看護婦、救急隊など）相互間の情報交換及び親睦の場であり、21世紀の長崎地区救急医療のあるべき姿を模索することを目的とする。

長崎地区救急実態調査

救急隊員研修：1回/年

定例会：2回/年

その他

= 平成4年10月より =

脳神経外科医として長崎の救急医療に従事

長崎実地救急医療連絡会(1992年):救急医療システムの構築を目指す

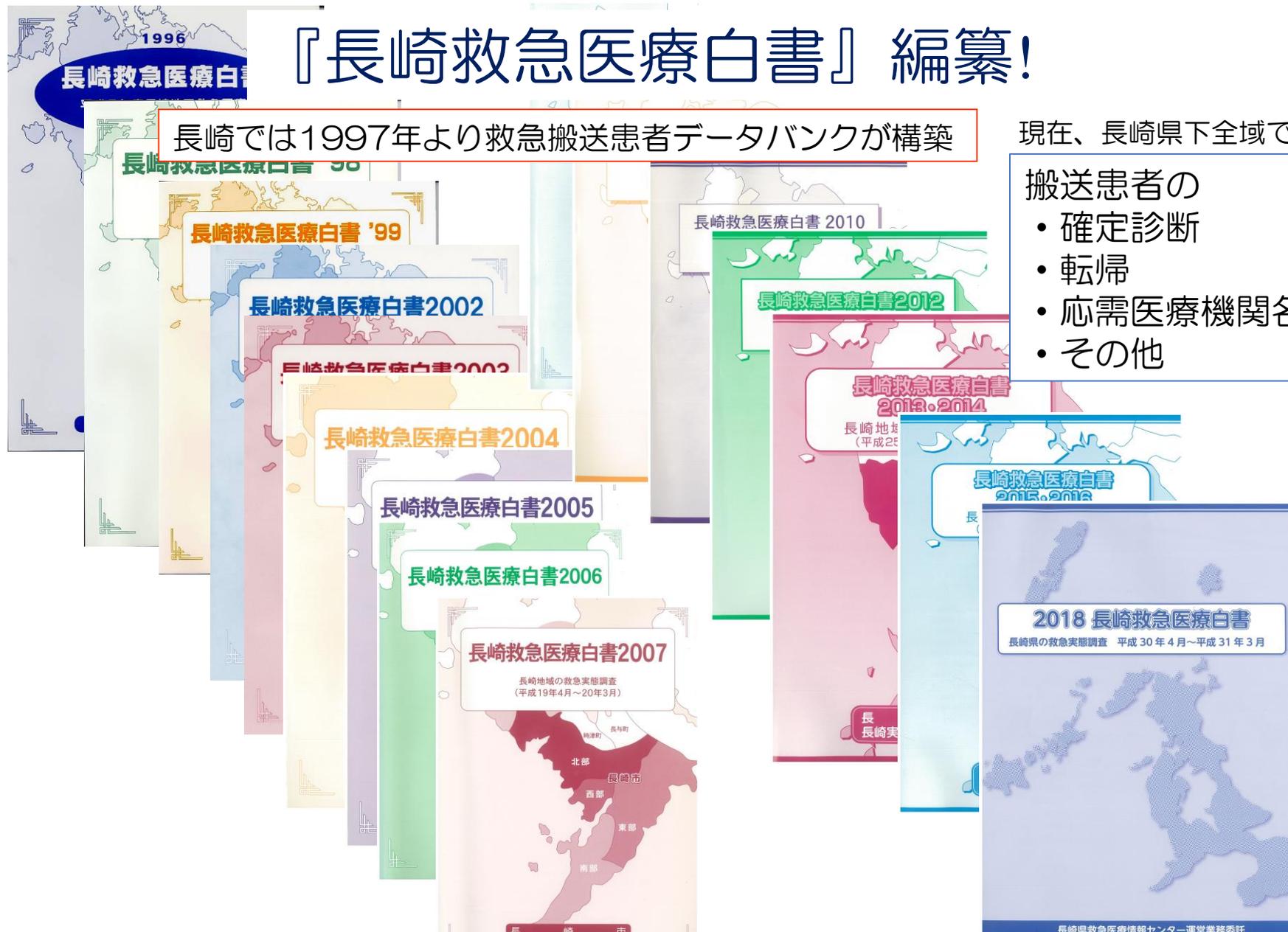
『長崎救急医療白書』 編纂!

長崎では1997年より救急搬送患者データバンクが構築

現在、長崎県下全域で展開

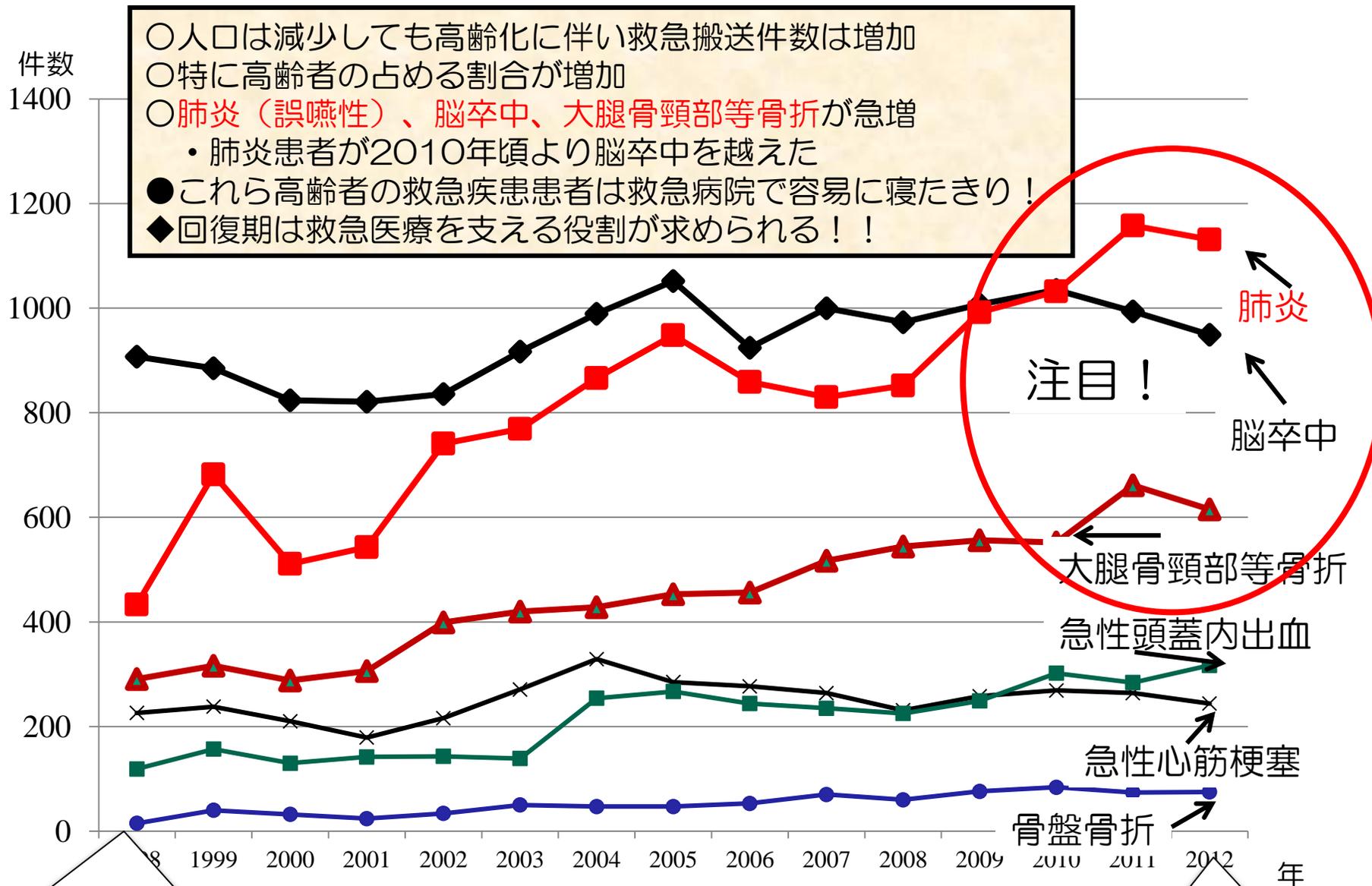
搬送患者の

- 確定診断
- 転帰
- 応需医療機関名
- その他



主な救急疾患の推移

2020年高齢化率；32%



○人口は減少しても高齢化に伴い救急搬送件数は増加
 ○特に高齢者の占める割合が増加
 ○肺炎（誤嚥性）、脳卒中、大腿骨頸部等骨折が急増
 ・肺炎患者が2010年頃より脳卒中を越えた
 ●これら高齢者の救急疾患患者は救急病院で容易に寝たきり！
 ◆回復期は救急医療を支える役割が求められる！！

高齢者率（65歳以上の割合） 17%

高齢者率 26.7%

出会った“地域リハビリテーション”

地域リハビリテーションとは、障害のある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に、いきいきとした生活がおくれるよう、医療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。 1991年日本リハビリテーション病院協会



**地域リハが目指すものは
「救急から在宅医療まで生活を支える地域医療の目標」**



救急医療に従事していた頃の思い！

- 助けるだけの救急では寝たきり・植物人間をつくるだけ
- せっかく助かった命、みんなで大切すべきだ！

救急病院のリハビリ
寝たきりを作らない

＝日本リハビリテーション病院・施設協会 2016年改定＝

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う。

NPO長崎斜面研究会

(1997年設立)

設立趣旨

坂段の街長崎

“どのように年老いても、
また障害があっても住み慣れた
ところでその人らしく安心して
暮らせるように支援する”

医療・介護職・建築・土木
・工学部・行政などの異職種集団



長崎独自の 移送システムの提案

階段昇降機



さかだん君3号機



自治会が運用



長崎市街移送システム1号機
リフト「てんじん君」

- (1) 介護保険サービスにおける提案
 - ①坂段加算
 - ②斜面地移送サービス事業
「いこーで」2000年4月より開始
- (2) モノレール、リフト設置提案
- (3) 乗合タクシー事業提案

長崎から高知へ

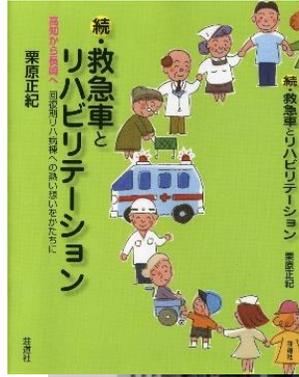


長崎
(天領)



高知
(土佐)

近森リハビリテーション病院



平成14年 6月増改築完成
1病棟60床（3病棟）180床
回復期リハ病棟



屋外にトイレ



五右衛門風呂

押しかけ健康教室
in 吾川村



脳卒中に負けないために



口をきれいに大切に



生き生き健康体操

夏季セミナー

リハ関連職と救急隊との交流 ～互いを知る～



救急隊と！



まちづくりサポーター養成講座



対象：中学生
地域の元気高齢者

終了後の資格

- 地域サポーター認定書
- ヘルパー3級
- CPR講習受講書



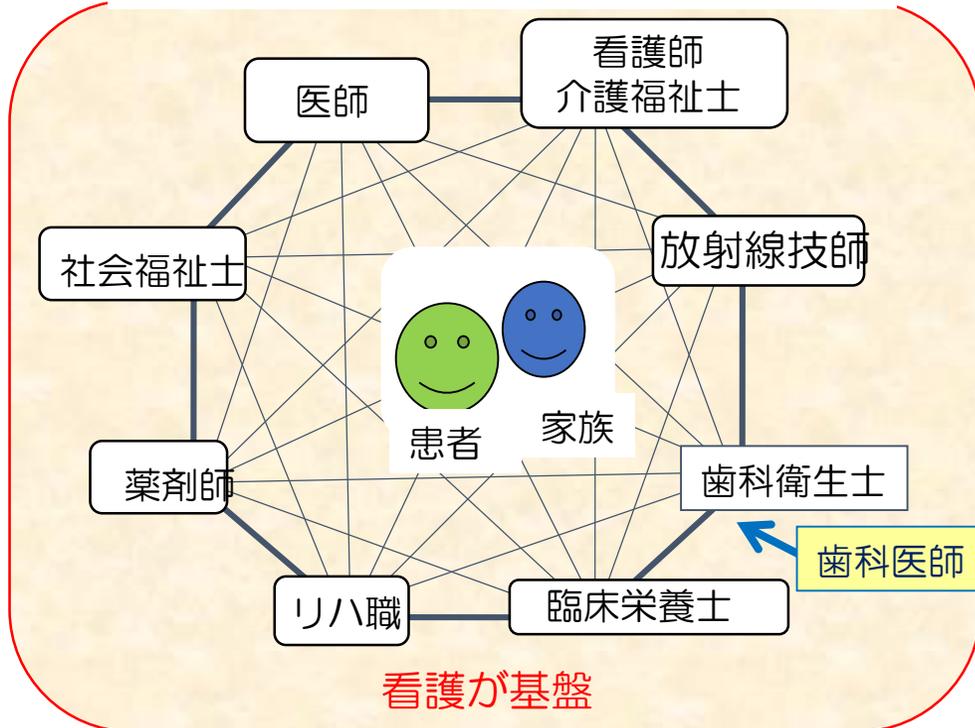
2008年 長崎リハビリテーション病院 開設



回復期リハビリ専門病院
3病棟 (143床)

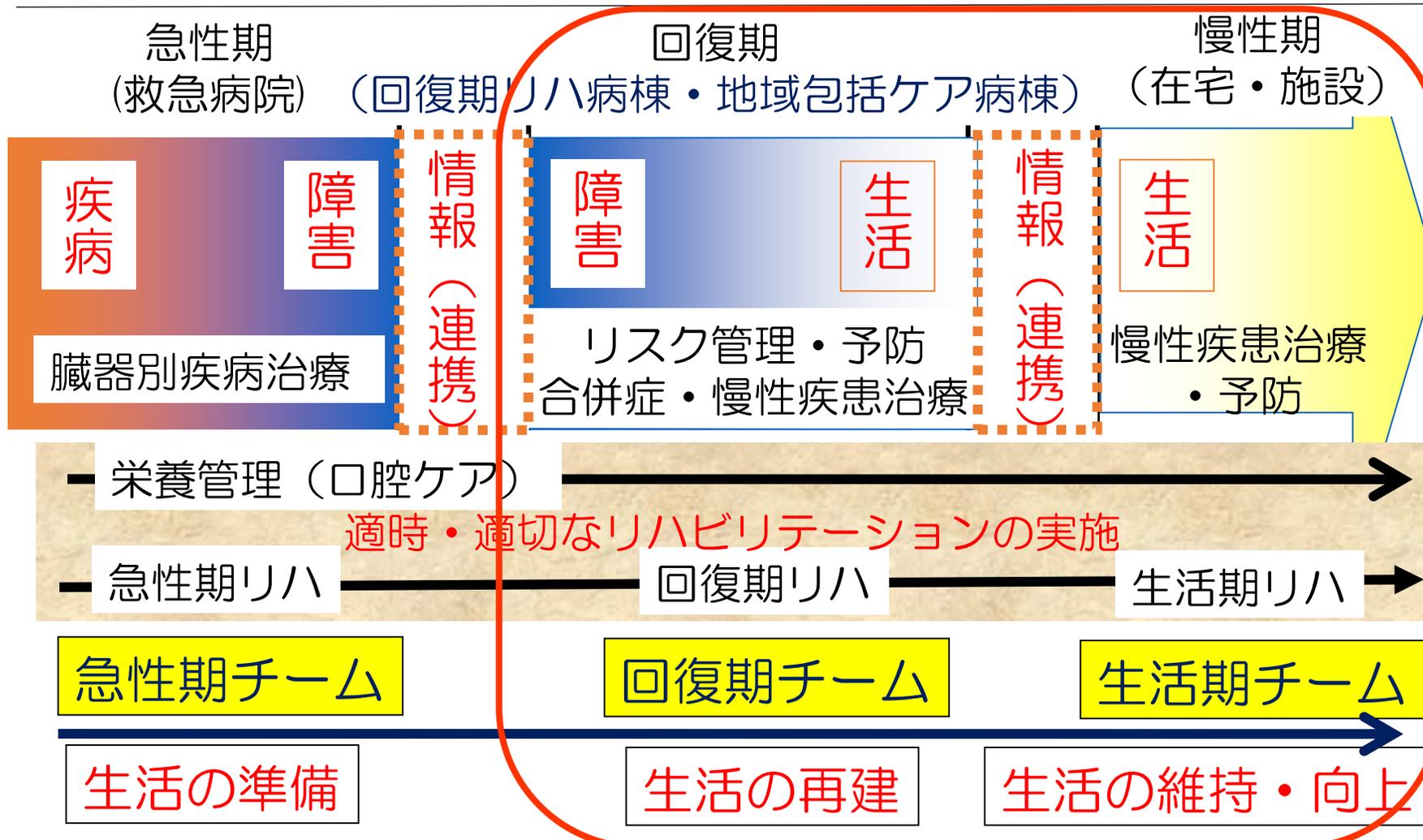
- 回復期リハビリテーション専門病院として **救急医療と地域生活を支えます**
- 障害の改善・地域生活の再建を支援します

徹底した多職種チーム医療の場



長崎リハビリテーション病院の任務

臓器別専門治療を地域生活に繋ぐ



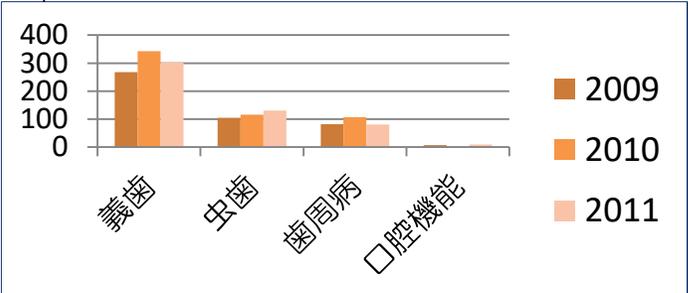
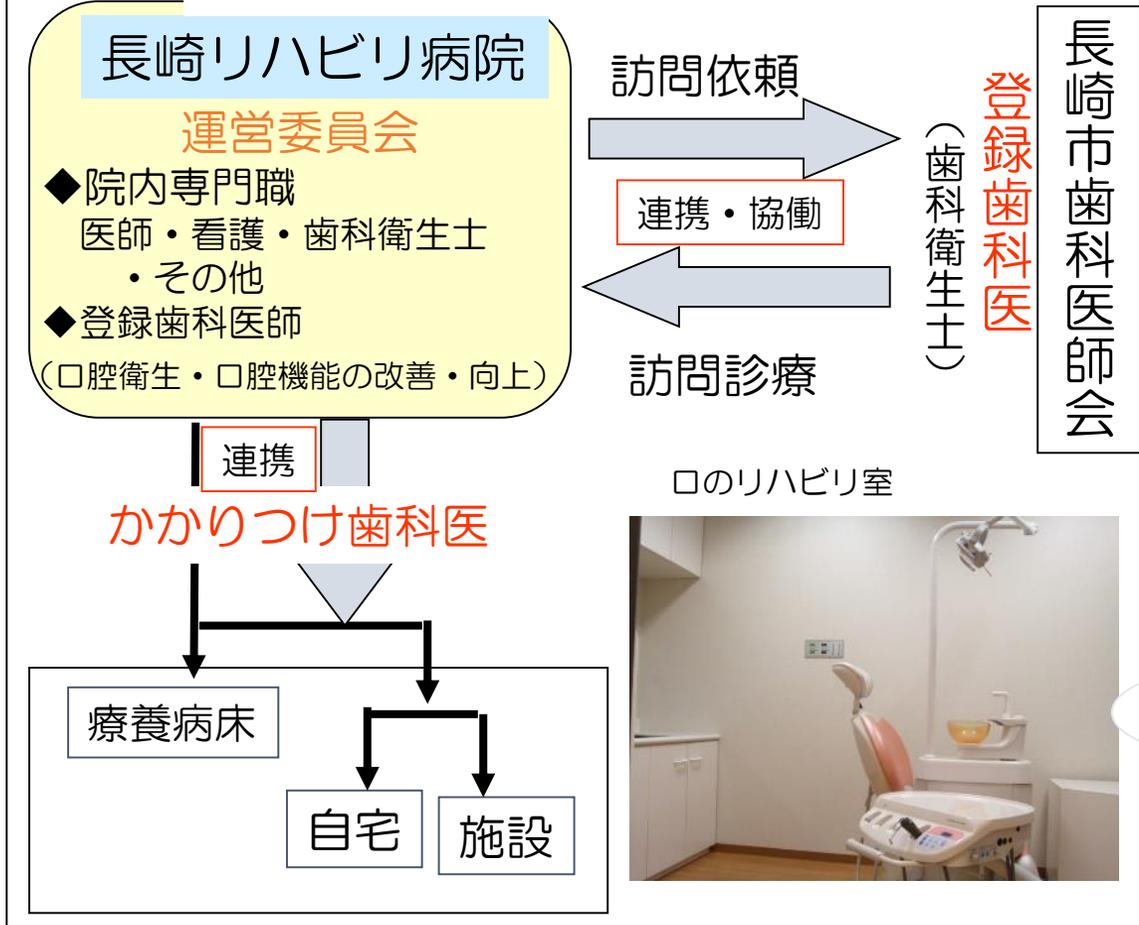
安心・安全で自立した生活の継続と地域参加

地域完結型医療提供体制

医科歯科連携の構築 2009年より

口から食べる支援!

歯科診療オープンシステム



義歯の調整が最重要



歯科医
 歯科衛生士

義歯調整後に食事の場面を観察

口腔機能の再建 (噛める総義歯) を目指す

在宅支援リハビリテーションセンターぎんや

併設：介護サービス事業所



訪問リハビリ銀屋

居宅支援事業所銀屋



通所リハビリ銀屋

生活期リハビリテーションの拠点

訪問リハビリテーション



これから100段上は
訪問する側にも厳しい

100段

訪問リハビリテーション



一般社団法人 是真会の地域を支える活動

当事者・家族の会
+
地域ボランティア
+
プロボノ活動

諏訪小学校福祉体験学習



外出しえん



銀屋うきうき教室



リハケア交流会

地域包括支援センターと共に

専門職研修



坂のまちの暮らしを考える会

行政と共に



陶芸教室

健康教室



長崎シャチの会



多楽福会



季節の会

年1回の五島（離島）訪問



交流会（意見交換）



家庭訪問



本論

災害と地域リハビリテーション



一般社団法人
日本災害リハビリテーション支援協会
(JRAT)
＝概要＝



JRAT代表 栗原正紀

一般社団法人是真会
長崎リハビリテーション病院 理事長

一般社団法人 日本災害リハビリテーション支援協会
Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team (JRAT)

設立経緯

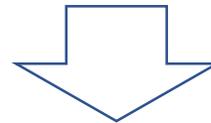
東日本大震災2011年3月11日



【1】東日本大震災リハビリテーション支援関連10団体



**【2】大規模災害リハビリテーション
支援関連団体協議会 (JRAT) : 13団体**



熊本大地震2016年4月14日

その他、豪雨災害等



2020年4月1日

【3】一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会: 13団体

Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team (JRAT)

東日本大震災の特徴

2011.3.11 14時46分18秒

- 広範囲の沿岸部
- **高い高齢化率30%以上**
- 医療、介護サービスの過疎地帯
- 大津波による大量の死亡者
- 長期化する高齢者の避難所生活
- そして原発被害



- 生存者に受傷者が少なく、死亡者が多い
- 外傷による死亡者が非常に少ない
- 災害関連死が多かった (3,194人以上)**

Preventable disaster death

教訓

超高齢者社会における災害時には
生活不活発対策（リハビリテーション支援）が重要となる

2011年【1】東日本大震災リハ支援関連10団体

災害リハビリテーション支援体制の構築

東日本大震災の教訓：災害関連死対策

東日本大震災時の避難所

2011・3・11



高齢者は容易に生活不活発
となり寝たきりに

東日本大震災の教訓

震災関連死

Preventable disaster death
「防ぎうる死」

3,194人以上（平成26年9月現在）
うち、発災から2年半が3,078人
福島では心疾患関連死が急増

生活不活発

- Subacute and chronic phase
- Shelter, hospital and temporary housing
- *Worsened chronic disease, disuse syndrome*
(DMAT: Dr小早川より)

災害死
15,882人

行方不明者
2,688人
(平成26年3月現在)

『死亡者が多く、
死因の92%が水死、
生存者の外傷は少ない』

DMAT

JMAT

Preventable Disability
「防ぎうる生活機能低下」
(Dr大川)

支援

東日本大震災リハ
支援関連10団体

災害リハビリ支援

5月初旬より

支援か所：気仙沼市、石巻市、双葉町（猪苗代）
派遣期間：148日間（5/6～9/30）
派遣者数：163人、延べ人数：1,218

復興庁報告2012年

「震災関連死」の防止には、見守り活動等の孤立防止や被災者への「心のケア」だけでなく、地域経済や職業など「生活再建ができてこそ健康も回復できる」と指摘している。

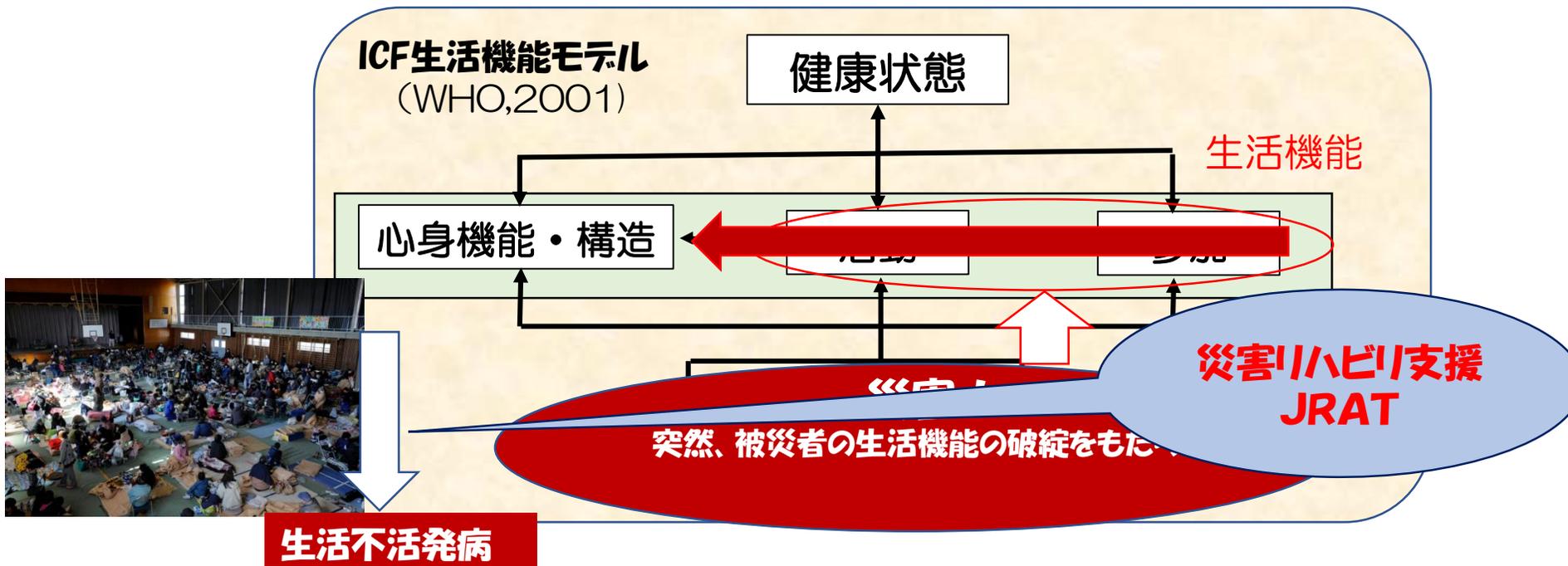
災害が起こり、その災害を「生き延びた命」、あるいは「救われた命」が、**その後の避難生活・復旧・復興環境のなかで十分なケアを受けられずに“奪われる”**ことは、本人はもとより、災害と闘う私たちすべてにとって痛恨の極みだ。それは、あえて言えば、限りなく“人災”に近い災害死であり、防災にとっては、**災害直接死を防ぐ対策と同等の、克服すべき防災対策として位置づけられなければならない。**

災害で精神的あるいは身体的ストレスで心筋梗塞・脳梗塞の発症リスクが高まり、避難所生活やその後の仮設住宅生活で、孤立化、そして生きがいや仕事を失うことで「活動」・「参加」の機会・場を喪失し、特に**高齢者の心身が急速に衰える生活不活発病**（いわゆる廃用症候群）が広がった。

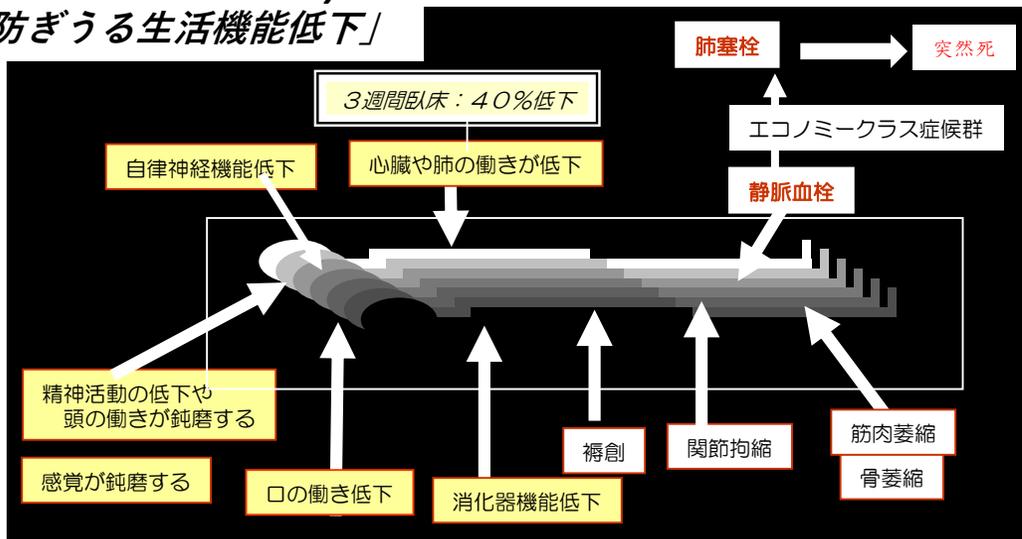


**生活不活発病対策が必須
災害リハビリテーションの重要性**

整理：何故、災害時にリハビリテーションか？



Preventable Disability 「防ぎうる生活機能低下」



慢性疾患の悪化
新たな疾患の発症

東日本大震災の教訓

震災関連死

Preventable Disaster Death
「防ぎうる死」

3,194人以上 (平成26年9月現在)
うち、発災から2年半が3,078人

2013年【2】大規模災害リハビリテーション 支援関連団体協議会(JRAT)

2015年関東・東北豪雨災害 in 茨城



情報収集（ニーズ調査）
専門的評価



シルバー体操指導士



○日本医師会(JMAT)との関係

戦略会議での協議の結果(2015年12月17日)

- JRATは災害時、**JMATの傘の下**で活動する
: JMATとの合意

2017年11月10日日本医師会長からの都道府県医師会長への発信文書

日本医師会長

横倉



災害時医療支援活動におけるJMATとJRATの連携推進および
地域JRAT設立と育成への支援について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、貴会におかれましては、日本医師会災害医療チーム(JMAT)へのご協力を賜り、誠に恐れ入ります。

今般、本職が代表を務める被災者健康支援連絡協議会の構成団体でもあります、「大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT)」の栗原正紀代表より、標記の依頼がありました。

JRATは、平成28年熊本地震等において、JMATの傘下組織という位置づけで組織的な活動をされております。

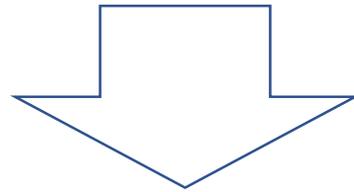
現在、JRATでは都道府県ごとの組織である「地域JRAT」の設立を進めており、今般、本会に対し、各都道府県医師会(郡市医師会)よりその育成への協力支援や連携の構築と指導をしていただくことについて、協力依頼がありました。

災害リハビリテーションの概念

災害リハビリテーションとは、

被災者・要配慮者などの生活不活発病や災害関連死等を防ぐためにリハビリテーション医学・医療の視点から関連専門職が組織的に支援を展開することで、被災者・要配慮者などの早期自立生活の再建、復興に資する活動の全てをいう。

(2013年JRAT定義)



災害リハビリテーション支援組織
JRAT

熊本地震災害

2016年前震：4/14、本震：4/16

益城町



西原村



4/15対策本部開設
東京本部・現地本部



支援参加人数等

- ①東京本部： 346名
- ②熊本本部： 765名
- ③直接支援： 1774名
(活動隊数：554隊)

主な災害とJRAT活動

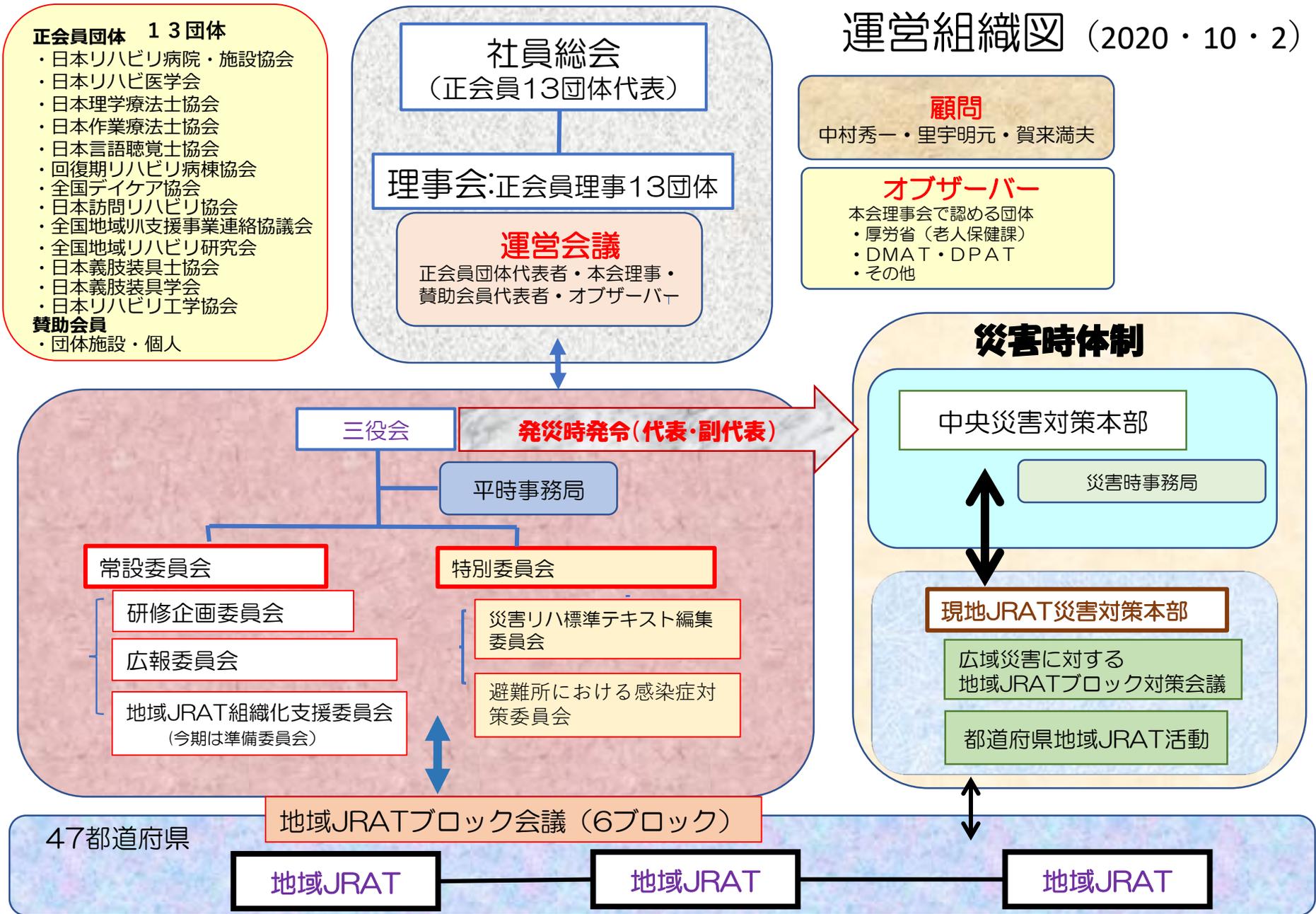
発災	災害	支援活動	活動内容
2011年3月	東日本大震災	10団体：全国	3か所の避難所支援
2014年8月	広島市豪雨土砂災害		情報収集・集約・発信
2014年9月	長野県災害		情報収集・集約・発信
2015年5月	口永良部島火山噴火	鹿児島JRAT	情報収集・集約・発信
2015年9月	台風17号 関東・東北豪雨災害	栃木JRAT 茨城JRAT	避難所支援 避難所支援
2016年4月	熊本地震災害	全国規模	避難所支援
2017年7月	集中豪雨 九州北部豪雨災害	大分JRAT 福岡JRAT	避難所支援 避難所支援
2018年6月	大阪北部地震災害	大阪JRAT	避難所支援
2018年7月	豪雨 西日本豪雨災害 岡山 広島 愛媛	西日本地域JRAT 広島JRAT 愛媛JRAT	避難所支援
2018年9月	北海道胆振東部地震災害	北海道JRAT	
2019年8月	台風15号 佐賀豪雨災害	佐賀JRAT	避難所支援
2019年9月	台風17号 千葉豪雨災害	千葉JRAT	避難所支援
2019年10月	台風19号 豪雨災害	岩手・茨城・新潟 埼玉・千葉・長野 福島・宮城JRAT	避難所支援 避難所支援 避難所支援
2020年7月	集中豪雨 熊本人吉豪雨災害	熊本JRAT	避難所支援

コロナ禍における初のJRAT活動

2021年2月 福島・宮城地震：福島・宮城・岩手・茨城・栃木・埼玉・山形JRAT：情報集約

2020年【3】日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)

運営組織図 (2020・10・2)



JRAT支援活動の原則

～開始から撤退まで～

- 1) 発災直後より調整会議に参画
- 2) 避難所が開設されたら、支援活動開始
◆原則、県行政または対策本部からの依頼に基づく
- 3) 原則、助言はしても、直接的リハサービスの提供は控え、速やかに医療や介護保険サービスに繋ぐ
- 4) 仮設住宅移行から生活安定時期までを視野に、地域
リハビリテーション活動等へ速やかに移行し、撤退
- 5) 避難者の住民力を生かし、役割、活動、参加等を提案

JRATの具体的支援内容

●DMAT・JMAT・DHEAT等との強固な連携・適切な情報交換

- ①避難所環境評価、整備提案
- ②避難所等、要配慮者に関する災害リハビリトリアージ
 - ・要配慮者：高齢者・障害児者・難病者・在宅療養者等、妊婦・乳幼児等
 - ・助言はしても、直接的リハサービスの提供は原則無い
 - ・速やかに医療や介護保険サービスに繋ぐ
- ③生活不活発対策
- ④リハビリ医療資材等（福祉機器）の適時・適切な供給
- ⑤避難生活での役割、活動、参加等を提案

■ JRAT更なる組織化
～地域JRAT～

各都道府県に《**地域JRAT**》の組織化を！

地域JRATの定義

地域JRATは都道府県単位で組織化されたもので、その都道府県を代表して、平時には災害リハビリテーションチームの育成、関係各機関・団体との連携強化および地域住民への教育・啓発など、防災・減災活動を実施するとともに発災時には組織的かつ直接的支援を行う核となる。（JRAT）

地域JRAT活動基本

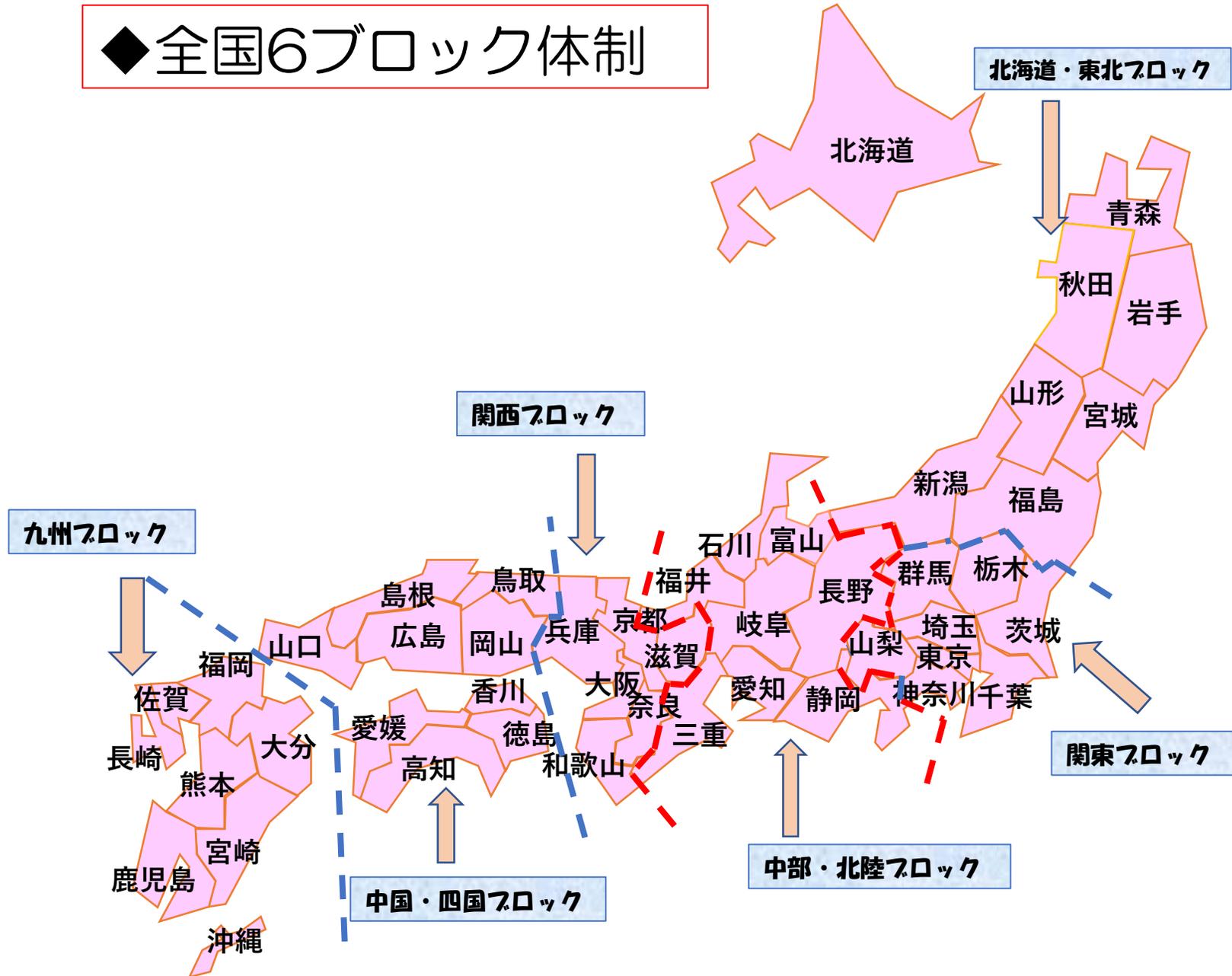
○地域JRATは地元で発災した時は**情報集約**そしてJRAT東京本部に**発信**。

○災害対策本部、災害調整会議に参画、県行政の要請に基づき**災害リハビリテーション活動**を実施。

○大規模災害時等、他県からの受援体制構築

□平時においては、**教育・啓発・人材育成**を行うと共に、他の災害支援関連団体、行政部門、県医師会と**協力・連携**して防災・減災活動に参画。

◆全国6ブロック体制



コロナ禍での感染防御

クラウドファンディングによる助成
(東京コミュニティー財団)

配備品名・数量

品名	数量	単位	熊本	北海道 東北	関東	中部	近畿	中四国	九州
サージカルマスク	100,000	枚	2,000	16,000	18,000	16,000	16,000	16,000	16,000
フェイスシールド	3,000	枚	200	400	800	400	400	400	400
プラスチックガウン	2,025	枚	150	300	375	300	300	300	300
手指消毒用ジェル180ml	1,960	本	196	294	294	294	294	294	294
除菌クロス	360	袋		60	60	60	60	60	60
非接触体温計	60	個	5	10	10	10	10	10	5

各ブロック単位に分散・保管
発災時に活動拠点へ迅速に配備する

コロナ禍におけるJRAT活動



アルコール消毒液の準備

熊本県人吉豪雨災害では他県からの支援がコロナ禍で制限された



段ボールベッドの組み立て

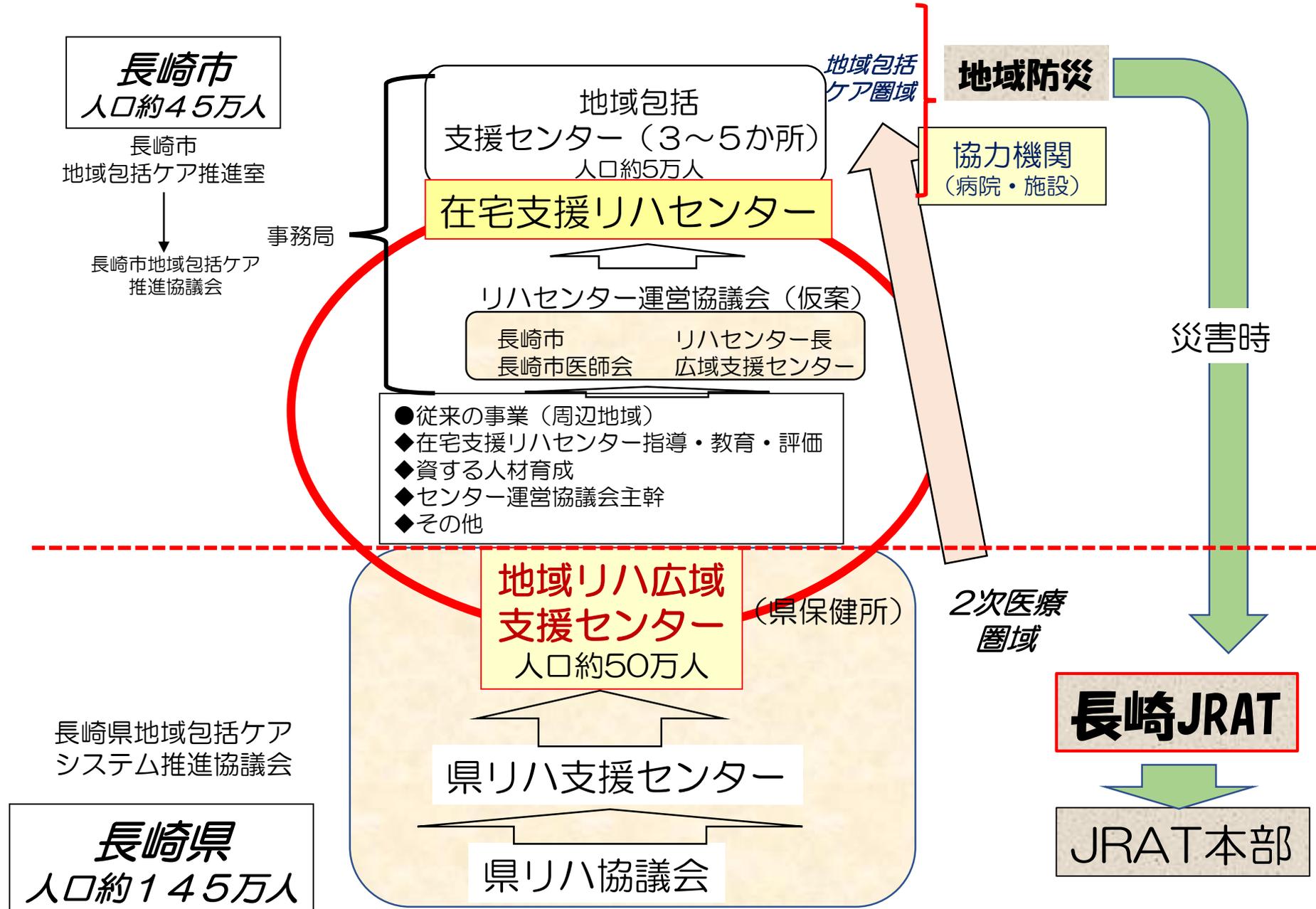


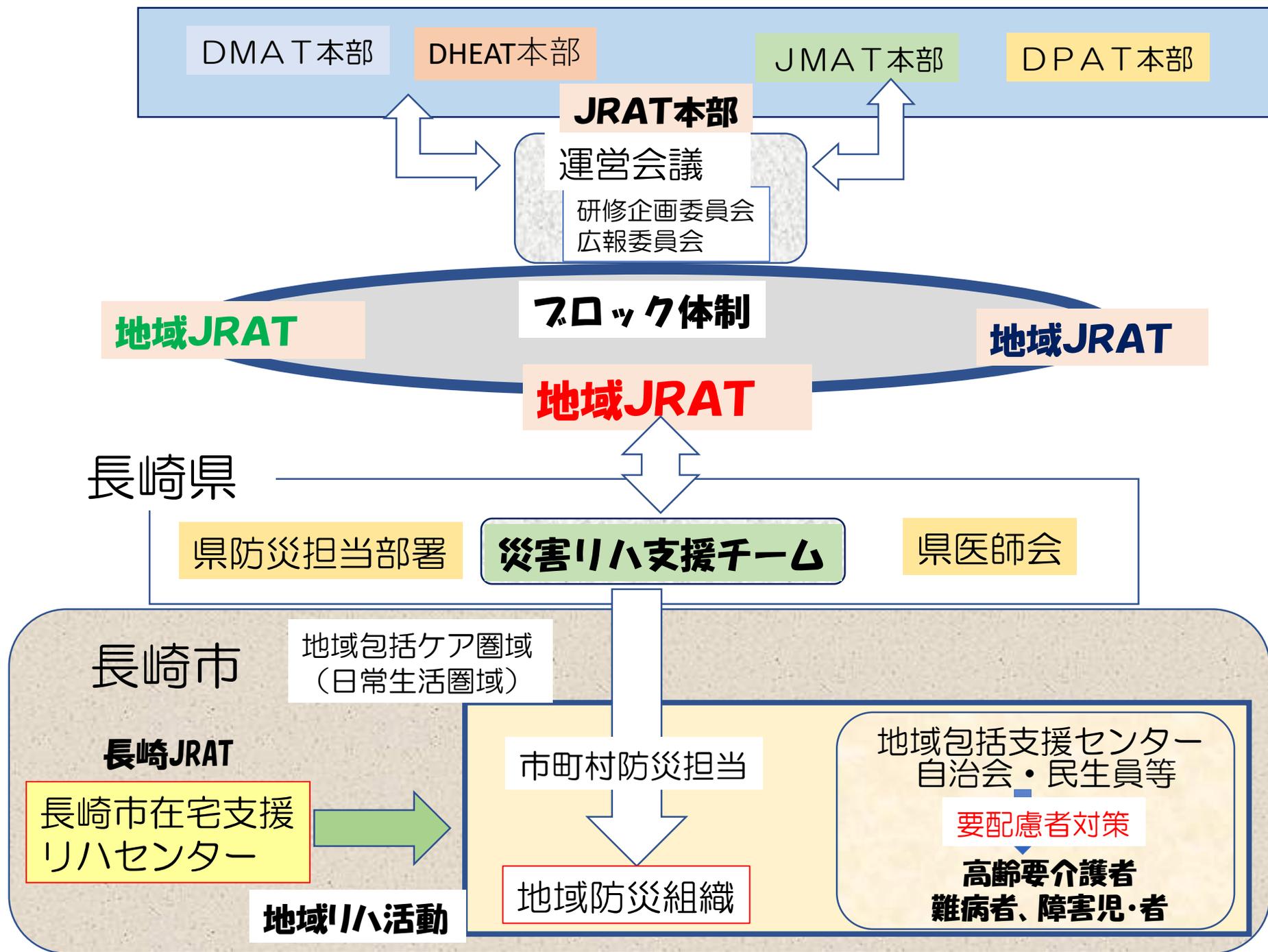
段ボールで区画された避難者

= 地域JRATに期待 =

長崎JRAT紹介

地域包括ケア時代：長崎におけるJRAT体制のイメージ





長崎JRATの工夫

- ①長崎県地域リハビリテーション整備支援事業を基盤として組織化
- ②長崎県との協約締結
- ③第7次医療計画にJRAT名称記載

【運営上の工夫】

- 協力支援病院体制（登録）を構築
- 県外へ支援の際は複数の病院スタッフでチームを構成

例：長崎JRAT-A、Bチーム等

：このことで病院負担を軽減：

◆1病院1名派遣/チーム

地域包括ケアと災害

災害は全ての被災者の日常性を奪う！
被災者は突然の生活機能障害に陥り、
住み慣れた地域そのものを失う！

コロナ禍では地域は自分達で守るしかない！

災害に対するレジリエンスな地域づくりが必須

平時からの“地域JRAT”活動
地域を支えるリハマインドが大切

避難所の自立運営（互いに支え合う）を目指す

～平時からの地域防災組織・自治会との連携～

身近な避難所をあなたは知っていますか？

～ ちょっと、避難所をみんなで考えてみませんか～

昨今のちょっとおかしい気候 あなたの街は大丈夫ですか？
いざというときのために、避難所を確認してみましょう

避難したら、
小学校のどこに行ったらいいんだろうか？



小学校には何があるんだろうか？



体育館で寝泊まりするんだよね。
何か持っていくものは？

今回、身近な避難所である「諏訪小学校」で避難所の
疑問をみんなで確認して、考えてみましょう。
みなさん、ふるってご参加ください。

令和元年10月26日 土曜日 9:00～12:00

諏訪小学校体育館集合

避難所設備・備品の確認や避難イメージの意見交換など

長崎災害リハビリテーション推進協議会（長崎JRAT）
諏訪小学校 銀屋町自治会 磨屋地区連合自治会
桜馬場地域包括支援センター 長崎市社会福祉協議会 長崎市中央総合事務所
長崎市防災危機管理室 長崎市在宅支援リハビリセンター協力病院

避難所体験会

～地域住民と共に～



ワークショップ



体験

災害時避難所等生活支援機器・システムの 開発・実証・実用化に関する協定

2021年6月19日締結

”長崎モデル“を発信

産・学・官
医・工
連携

長崎IRAT
代表 松坂 誠應

長崎ケーブルメディア
代表取締役社長 峰 利克

長崎大学情報データ科学部
学部長 西井 龍映

長崎市
長崎市長 田上 富久

東京大学大学院工学系研究科
研究科長 染谷 隆夫

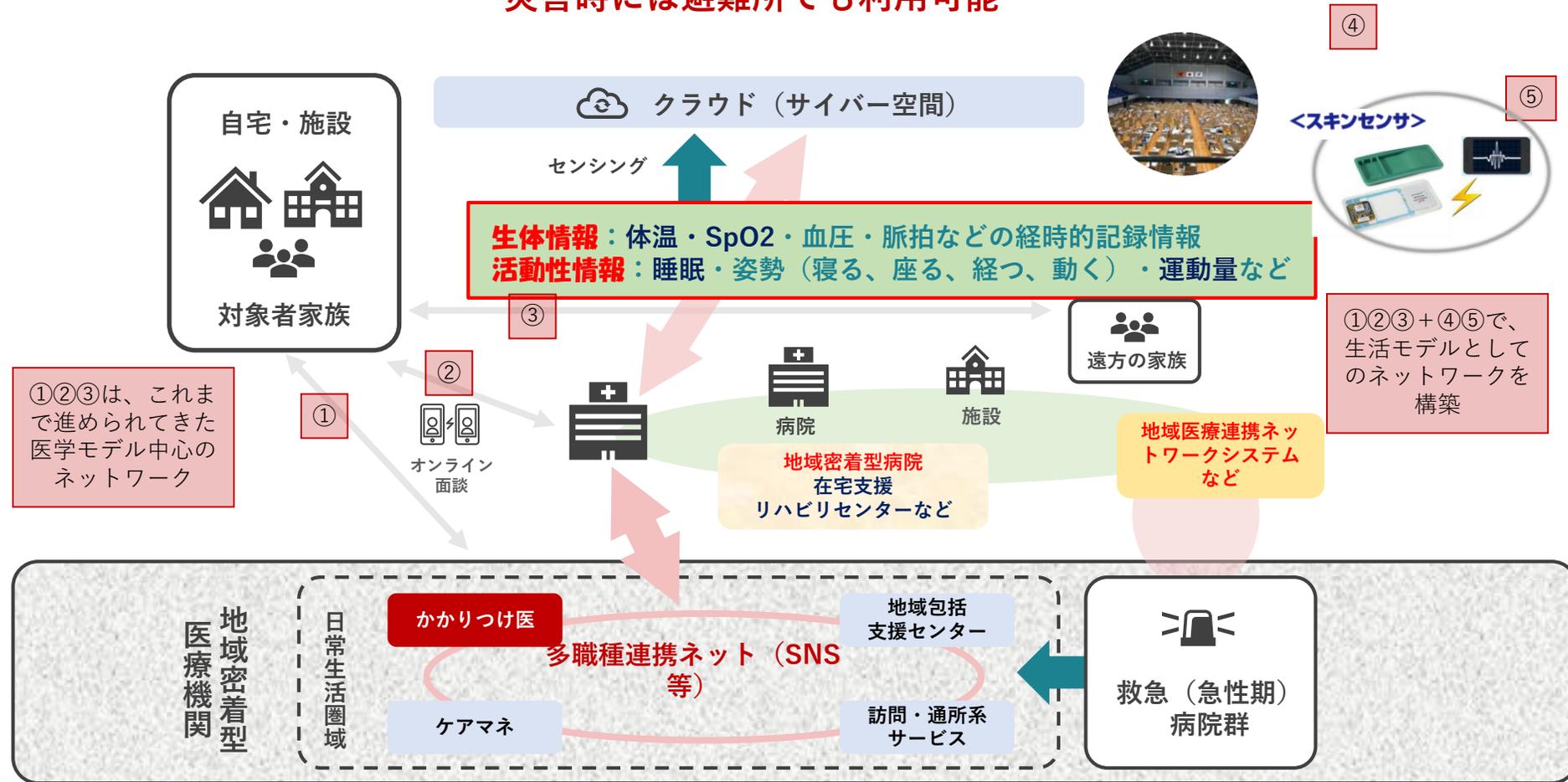
サイントル株式会社
代表取締役 佐藤 泉

一般社団法人是真会
理事長 栗原 正紀

=長崎モデル=

災害時も機能する地域包括ケア時代の見守り・支えあいシステム

災害時には避難所でも利用可能



長崎モデル(東大検証/6月長崎検証)

東大検証(昨年12月末)
避難所を模した体育館での初のシステム稼働検証



睡眠、体温、活動量、SpO2を一括画面で管理(遠隔管理)



避難所体験訓練における実証(in 長崎)

長崎市立諏訪小学校での実証(2021/6/19)の様子



・KTNテレビ長崎、他、メディアにて取り上げられる

・当日設置した段ボールベッド、他センサー機器



・Signtle管理画面



・スキンセンサー装着の様子



住民力に学ぶ！

自立した避難所運営から学ぶ
～地域包括ケアの神髄を見た～

岩手県大槌町吉里吉里地区

町の行政機能が破綻、その時、住民力が働いた

：みんなで役割を決め、避難生活において活動・参加を実現

被災した大槌町役場
(町長や総務課長等40人近くが死亡)



ひょっこいぼうたん島



吉里吉里地区災害対策本部

避難所となった学校の校長先生の提案で組織（役割分担）が決められた
集まったのは消防団経験者（特に団長）で校長の言うことには従った



雑誌「地域リハビリテーション」の取材
：三輪書店

年寄りからの教で、災害の時には「灯り」と「暖」が大切と言われていたのを思い出したので相談（バスから電気を引いた、焚火を炊いて絶やさないようにした）

ご遺体を調べて回った

本部長

本部長は毎日避難所を回り、声をかけていた

副本部長

神社から備蓄米、そして各家庭から食料を持ち寄って婦人部が料理をした

総務班

情報班

食料班

施設管理班

瓦礫の撤去を皆で行い、中学校にヘリポートを作った

被災者管理班

燃料管理班

バスで発電して避難所に電気を引いた

看護師がいたのでインフルエンザの疑いの人を別部屋で看病

保健衛生班

ガソリンスタンドから燃料を確保

「被災後を生きるー吉里吉里・大槌・釜石奮闘記」

竹沢尚一郎 中央公論新社

●吉里吉里の実情

行政の機能がストップしていた状況下で住民の思いやりや被災前から存在していた地域的つながり（強固な地域コミュニティー）が秩序の空白を埋めた：主体性＋自主性

■結束を実現できなかった町の避難所の実情

- ・まとめる人が居ない、
- ・援助を待つ、不満、食料も毛布も無い

バラバラに避難した避難民同士の相互理解や秩序を創り出すことができないので外部支援に依存



提言：平時からの「ゆるやかなコミュニティー」の構築が重要

町内会・消防団・老人会・婦人会・PTA・福祉協議会・スポーツ団体・サークル・まちづくり協議会・商店街など複数の組織の連携

警告：ボランティアは「善意と言う美名の背後で、与える側と与えられる側という非対称的な関係性が再生産される危険性が潜む」

地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム

地域リハビリテーション

【定義】

障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、**住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う。**

(日本リハ病院・施設協会 2016年改定)

地域包括ケアシステム

【定義】

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても、**住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを、人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していく**

(厚生労働省HPより)

X
全世代

目指すはSocial Inclusion ≡ 地域共生社会の実現

見てる世界は同じ

地域包括ケアシステムの構築には地域リハ活動が重要！

これからの地域リハ・地域包括ケアを考察

考えの基本！

○地域医療は救急医療から慢性期・在宅医療介護に至るまで『広義の地域リハ理念』（≒**地域包括ケア**）の実現を目指す

◆地域の特異性（歴史・文化・経済・医療・介護等）を知り、提案・マネジメントする：Social System Engineering（造語）の考え方を啓発、人材育成

●そのためには

- ・多職種チーム医療の実現
- ・機能分化・連携

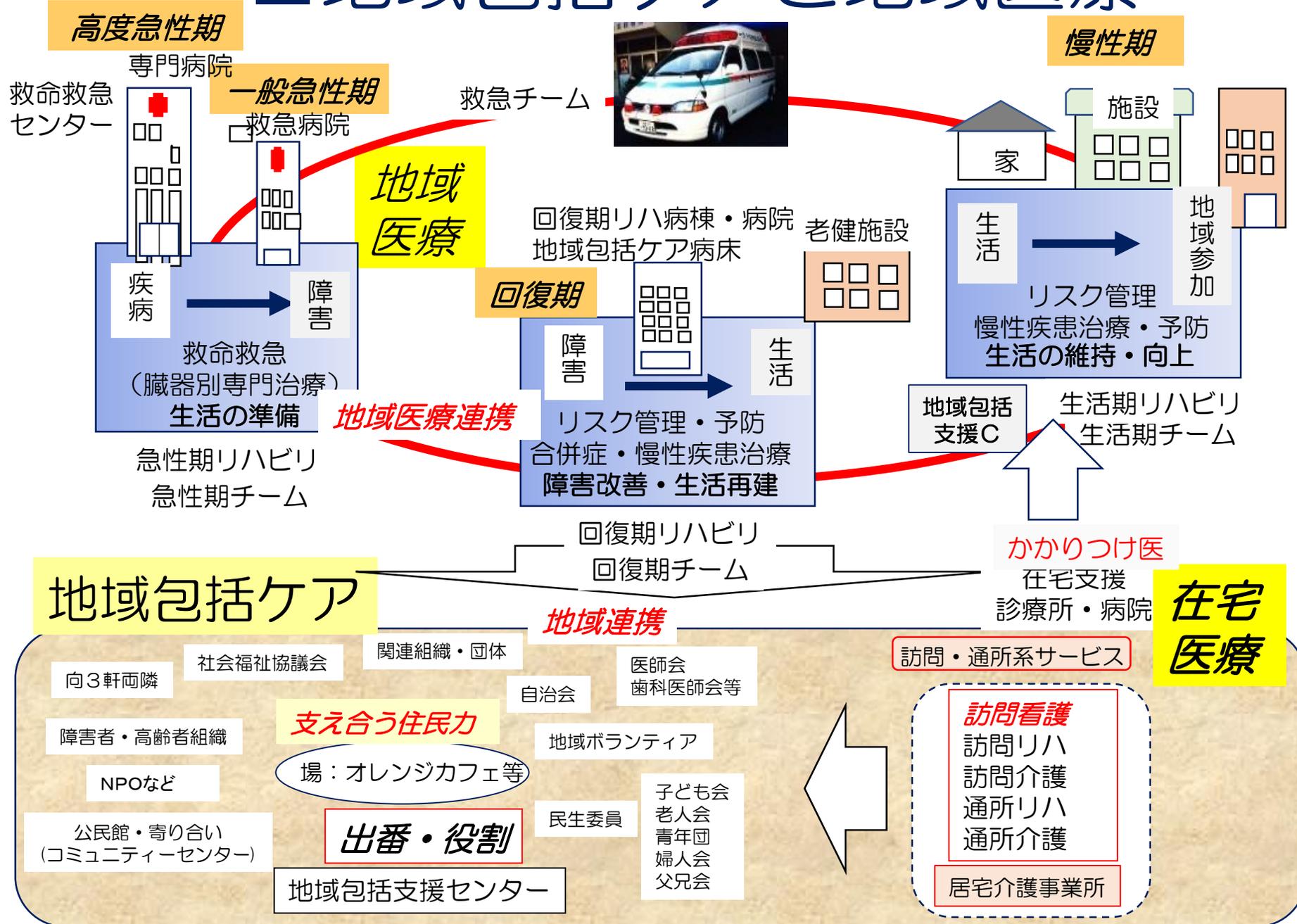
に基づく全人的医療（生活を視野にいれた）が展開され、地域完結型医療提供体制を実現する

●中小規模病院は如何にして地域密着型を実現するかが課題：地域医療構想の基本とする
：地域包括ケアを担う医療機関の表現

◆地域住民と共に！

地域の災害レジリエンスの醸成に努める

■ 地域包括ケアと地域医療



医療が地域生活を支える！構想

これからの病院医療
～地域密着型病院の提案～

長崎市

〔1〕在宅支援リハビリセンター事業

～地域密着型リハビリ拠点～

〔2〕地域密着型

在宅療養支援機関(仮称) 構想

～地域密着型在宅療養支援拠点構想～

【1】在宅支援リハビリセンター構想



回復期等

多職種協働

- ・医師・看護師
- ・PT/OT/ST
- ・社会福祉士
- ・管理栄養士など

病院（回復期リハ病棟）・診療所・老健等

- ①
- 医療保険サービス
入院・入所リハビリ・外来リハビリ
 - 介護保険サービス
通所・訪問リハビリサービス

◆リハ支援

②かかりつけ医、

③地域包括支援センター：**サロン活動等介護予防事業**

④地域リハ活動：支え合う地域づくり

◆連携システム構築など

テクノエイドや医科歯科連携

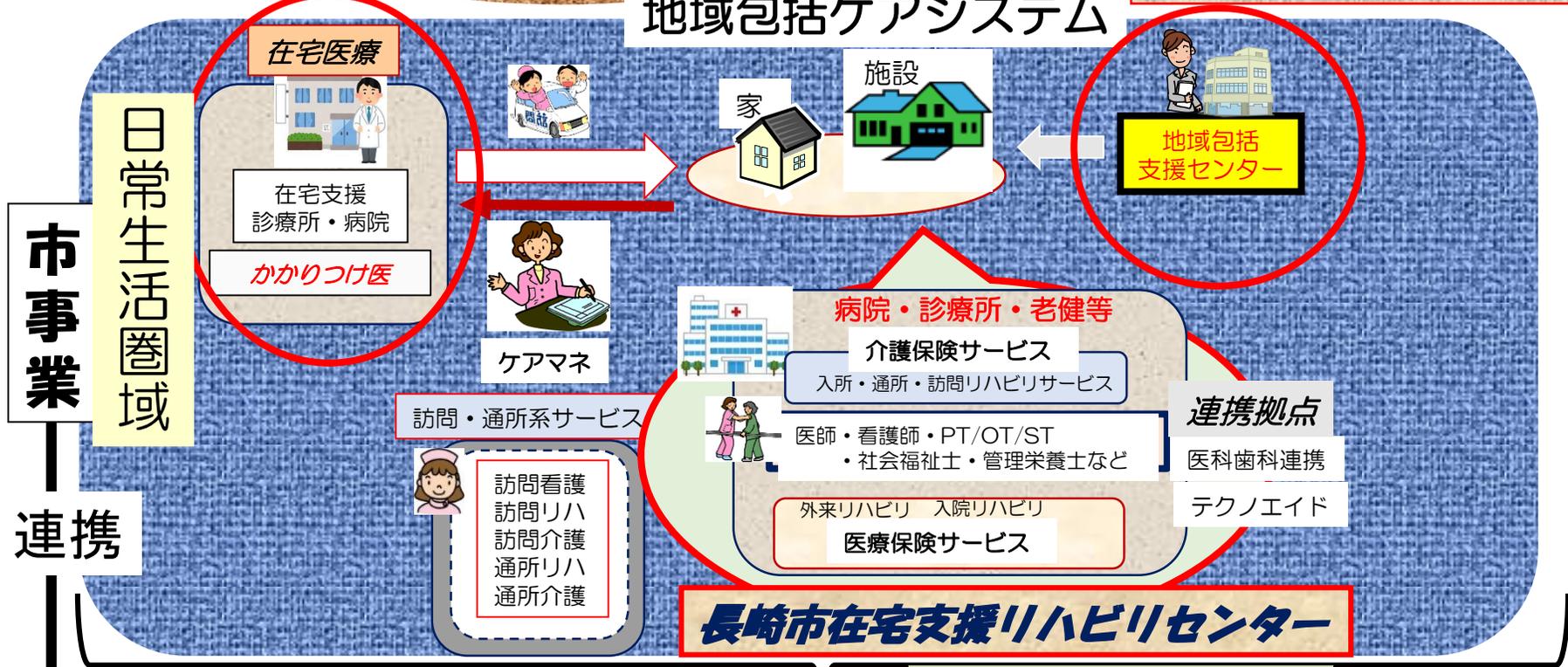


長崎市在宅支援リハビリセンター事業

2017年10月～

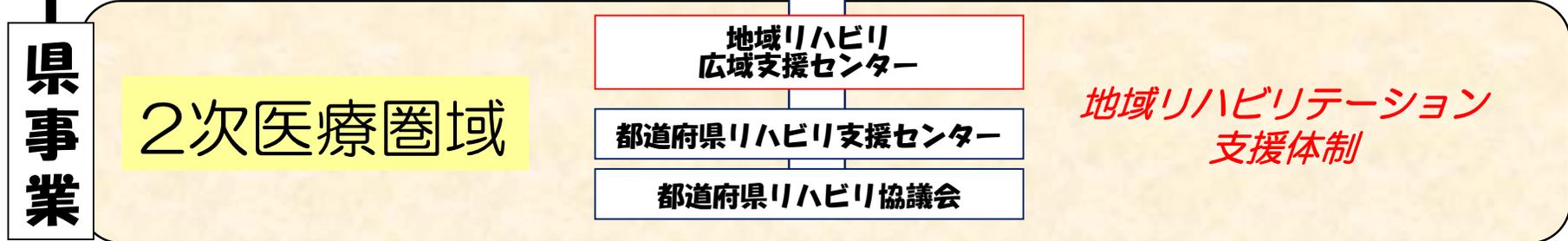


地域包括ケアシステム



長崎市在宅支援リハビリセンター

地域JRATの基本単位



コロナ禍

長崎市非常事態宣言
(令和3年1月18日)

長崎市在宅支援リハビリセンター

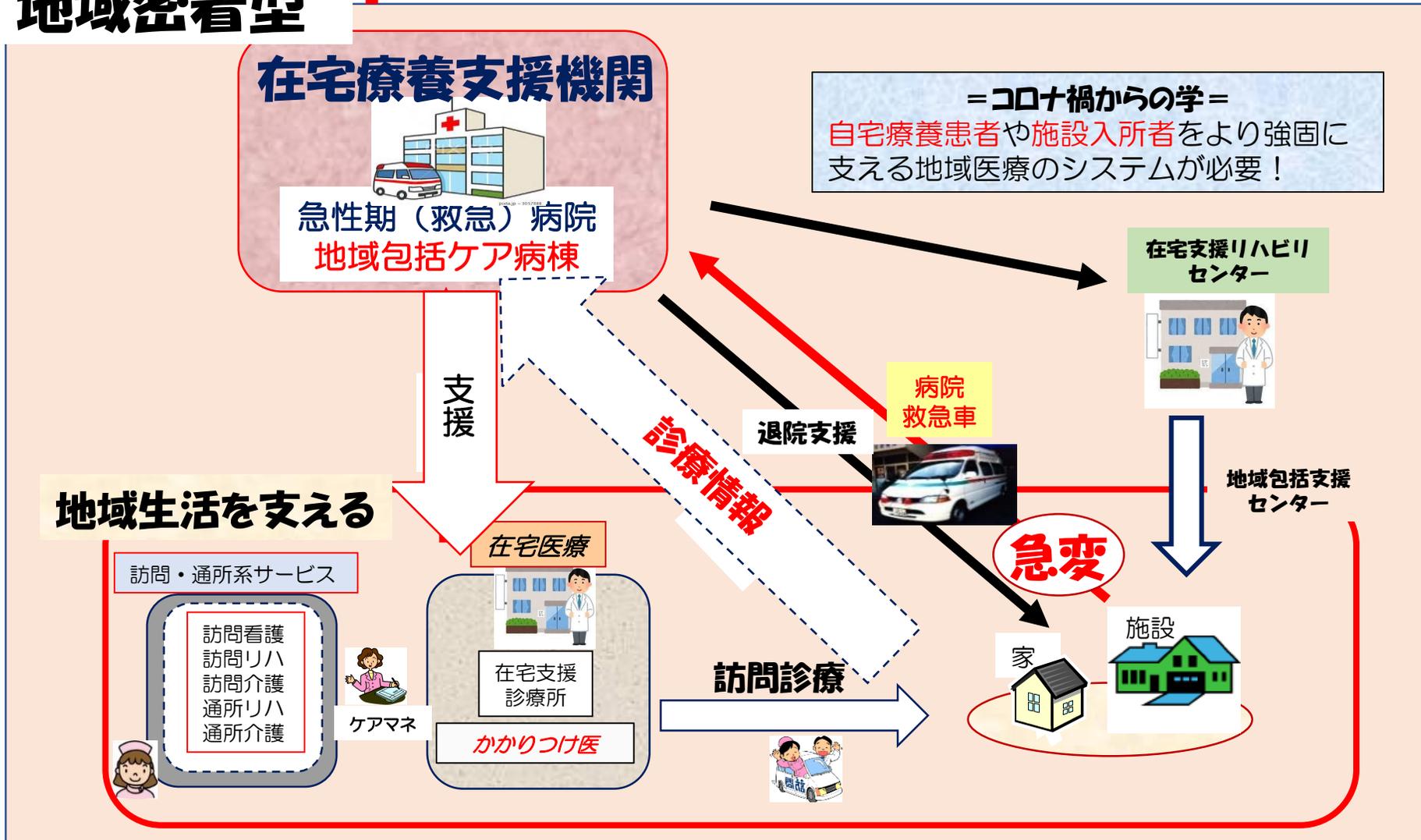
長崎市が提供する不織布マスクを担当圏域内の通所系事業所に配布すると共に具体的に感染対策自己評価表（独自に作成：専門医監修）の活用を訴え、啓発活動を展開



【2】地域密着型在宅療養支援機関(仮称) 構想基本形

公的病院・大学病院（救命救急センター等）

地域密着型



日本災害リハビリテーション支援協会代表として！

国（厚労省）への要望



- ①災害救助法及び関連法令・通達等にリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）の職名と災害リハビリテーション支援組織としての“日本災害リハビリテーション支援協会”を明記していただくこと。
- ②当協会では地域別組織である災害リハビリテーション支援組織（地域JRAT）を設立しておりますが、都道府県に対して地域JRATを支援するよう、働きかけをしていただきたいこと。
- ③当協会として災害リハビリテーションに関する普及・啓発を行っておりますが、国としてもご支援をいただきたいこと。

JRATは賛助会員を募集しています！詳細はホームページを